Hitachi Koki

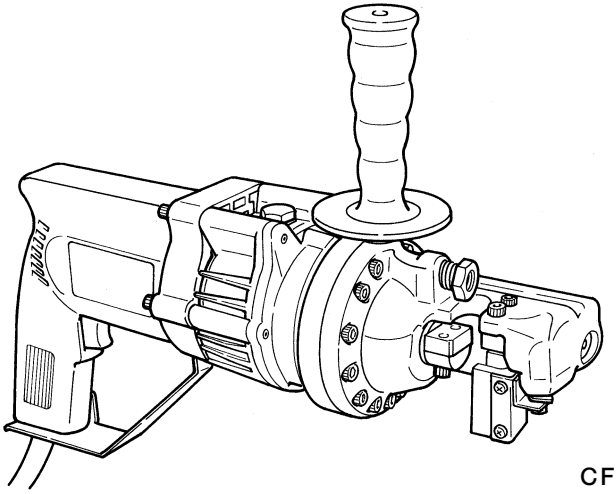
日立鉄筋カッタ

13 mm **CF 13**
16 mm **CF 16**

取扱説明書

このたびは日立鉄筋カッタをお買い上げいただき，ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり，正しく安全にお使いください。
お読みになった後は，いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。

二 重 絶 縁



CF 13
HITACHI

目　次

ページ

電動工具の安全上のご注意 …… 2
鉄筋カッタの使用上のご注意 …… 5
各部の名称 …… 7
仕　様 …… 7
標準付属品 …… 8
別売部品 …… 8
用　途 …… 8
作業前の準備 …… 9
ご使用前に …… 10
切断方法 …… 12
カッタブロックの寿命および交換方法 …… 14
プロテクタの交換方法 …… 15
油圧オイルの補給方法 …… 15
保守・点検 …… 16
カーボンブラシの交換方法 …… 18
ご修理のときは …… 20
全国営業拠点 ……裏表紙

⚠警告，⚠注意，注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠**警告**」と「⚠**注意**」に区分していますが，それぞれ次の意味を表します。また，「**注**」の意味も説明します。

⚠警告：**誤った取扱いをしたときに，使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。**

⚠注意：**誤った取扱いをしたときに，使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。**

なお，「⚠**注意**」に記載した事項でも，状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので，必ず守ってください。

注：**製品の据付け，操作，メンテナンスに関する重要なご注意。**

電動工具の安全上のご注意

- **火災，感電，けがなどの事故を未然に防ぐために，次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。**
- **ご使用前に，この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上，指示に従って正しく使用してください。**
- **お読みになった後は，お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。**

⚠ 警　告

① 作業場は，いつもきれいに保ってください。
- ちらかった場所や作業台は，事故の原因になります。

② 作業場の周囲状況も考慮してください。
- 電動工具は，雨中で使用したり，湿った，または，ぬれた場所で使用しないでください。
- 作業場は十分に明るくしてください。
- 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

③ 感電に注意してください。
- 電動工具を使用中，身体を，アース（接地）されているものに接触させないようにしてください。
  （例えば，パイプ，暖房器具，電子レンジ，冷蔵庫などの外枠）

④ 子供を近づけないでください。
- 作業者以外，電動工具やコードに触れさせないでください。
- 作業者以外，作業場へ近づけないでください。

⑤ 使用しない場合は，きちんと保管してください。
- 乾燥した場所で，子供の手の届かない高い所または錠のかかる所に保管してください。

⑥ 無理して使用しないでください。
- 安全に能率よく作業するために，電動工具の能力に合った速さで作業してください。

⑦ 作業に合った電動工具を使用してください。
- 小形の電動工具やアタッチメントは，大形の電動工具で行なう作業には使用しないでください。
- 指定された用途以外に使用しないでください。

⑧ きちんとした服装で作業してください。
- だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は，回転部に巻き込まれる恐れがあるので，着用しないでください。
- 屋外での作業の場合には，ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
- 長い髪は，帽子やヘアカバーなどで覆ってください。

⚠ 警　告

⑨ 保護メガネを使用してください。

- 作業時は，保護メガネを使用してください。また，粉じんの多い作業では，防じんマスクを併用してください。

⑩ 防音保護具を着用してください。

- 騒音の大きい作業では，耳栓，イヤマフなどの防音保護具を着用してください。

⑪ コードを乱暴に扱わないでください。

- コードを持って電動工具を運んだり，コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
- コードを熱，油，角のとがった所に近づけないでください。

⑫ 加工する物をしっかりと固定してください。

- 加工する物を固定するために，クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で，両手で電動工具を使用できます。

⑬ 無理な姿勢で作業をしないでください。

- 常に足元をしっかりさせ，バランスを保つようにしてください。

⑭ 電動工具は，注意深く手入れをしてください。

- 安全に能率よく作業していただくために，刃物類は常に手入れをし，よく切れる状態を保ってください。
- 注油や付属品の交換は，取扱説明書に従ってください。
- コードは定期的に点検し，損傷している場合は，お買い求めの販売店，または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
- 継ぎ(延長)コードを使用する場合は，定期的に点検し，損傷している場合には交換してください。
- 握り部は，常に乾かしてきれいな状態を保ち，油やグリースが付かないようにしてください。

⑮ 次の場合は，電動工具のスイッチを切り，さし込みプラグを電源から抜いてください。

- 使用しない，または，修理する場合。
- 刃物，トイシ，ビットなどの付属品を交換する場合。
- その他，危険が予想される場合。

⑯ 調節キーやスパナなどは，必ず取りはずしてください。

- 電源を入れる前に，調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。

⑰ 不意な始動は避けてください。

- 電源につないだ状態で，スイッチに指を掛けて運ばないでください。
- さし込みプラグを電源に差し込む前に，スイッチが切れていることを確かめてください。

⑱ 屋外使用に合った継ぎ(延長)コードを使用してください。

- 屋外で使用する場合，キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルの継ぎ(延長)コードを使用してください。

⚠ 警　告

⑲ 油断しないで十分注意して作業を行なってください。

- 電動工具を使用する場合は，取扱方法，作業のしかた，周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは，使用しないでください。

⑳ 損傷した部品がないか点検してください。

- 使用前に，保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し，正常に作動するか，また，所定機能を発揮するか確認してください。
- 可動部分の位置調整および締め付け状態，部品の破損，取り付け状態，その他，運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
- 損傷した保護カバー，その他の部品交換や修理は，取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は，お買い求めの販売店，または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
  スイッチが故障した場合は，お買い求めの販売店，または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
- スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は，使用しないでください。

㉑ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。

- この取扱説明書および弊社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものを使用すると，事故やけがの原因になる恐れがあるので，使用しないでください。

㉒ 電動工具の修理は，専門店に依頼してください。

- この製品は，該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は，必ずお買い求めの販売店，または日立工機電動工具センターにお申し付けください。
  修理の知識や技術のない方が修理すると，十分な性能を発揮しないだけでなく，事故やけがの原因になります。

⧈ 二重絶縁について

電気が流れる導体部と人の触れる外枠部の間が，二つの絶縁物で二重に絶縁されている電動工具であり，この製品には“⧈”マークを表示しています。
二重絶縁工具は，感電に対し安全性が高められています。
異なった部品と交換したり，間違って組み立てたりすると，二重絶縁構造ではなくなり，安全でなくなる場合があります。
電気系統の分解・組立や部品の交換・修理は，お買い求めの販売店，または日立工機電動工具センターにご用命ください。

鉄筋カッタの使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが，鉄筋カッタとして，さらに次に述べる注意事項を守ってください。

⚠ 警　告

① 使用電源は，銘板に表示してある電圧で使用してください。
表示を超える電圧で使用すると，回転が異常に高速となり，けがの原因になります。

② 仕様欄にある本機の最大能力を超えた作業はしないでください。
また，PC鋼などの硬い材料は切断しないでください。
切断片が飛ぶことがあり，事故の原因になります。

③ プロテクタは必ず取付けて使用してください。取りはずしたままで作業することはしないでください。

④ 油圧オイルは引火しやすいので，火気を近づけないよう次の点に注意してください。
- 運転中，または本体の暖かいときはポンプケースのオイルプラグをはずさない。
- 油圧オイルの補給は，本体がよく冷えてから行なう。
- 油圧オイルの補給は，周囲に可燃物のない場所を選び，こぼさない。こぼれたときは良く拭きとる。
- 油圧オイルの補給時や運転中はタバコを吸わない。
- 運転するときは，油圧オイルを補給した場所を離れて行なう。

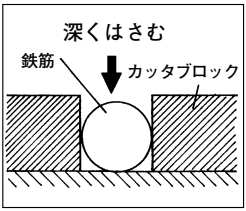
⑤ 鉄筋はカッタブロックの間に深くはさみ，切断してください。
浅い位置で切断するとカッタブロックを損傷したり，切断片が飛ぶこともあり，事故の原因になります。

⑥ スイッチを操作する際には，カッタブロックには絶対に指を近づけないでください。
けがの原因になります。

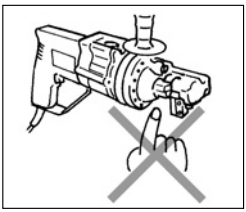
⑦ 鉄筋を短く切断すると切断片が右図の矢印の範囲で飛ぶことがあります。切断片が飛ぶ方向に人がいないことを確認してください。

④

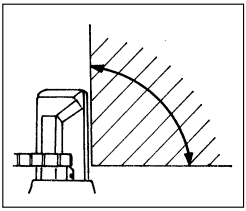
⑤



⑥



⑦



⚠ 警　告

⑧ **摩耗・破損・変形しているカッタブロックを使用していると，本体に損傷を与えるだけでなく，事故の原因になるので，新しいカッタブロックに交換してください。**

⑨ **使用中，機体の調子が悪かったり，異常音がしたときは，直ちにスイッチを切って使用を中止し，お買い求めの販売店，または日立工機電動工具センターに点検・修理を依頼してください。**
そのまま使用していると，けがの原因になります。

⑩ **誤って落としたり，ぶつけたときは，機体などに破損や亀裂，変形がないことをよく点検してください。**
破損や亀裂，変形があると，けがの原因になります。

⚠ 注　意

① **カッタブロックやハウジングの取付ボルトのゆるみ，油圧オイル量などを作業前に点検してください。**
また，スパナなどの工具類は忘れずに機体から取りはずしてください。

② **カッタブロックの点検・清掃・交換時は，さし込みプラグを電源から必ず抜いてから行なってください。**
誤ってスイッチを入れてしまうと事故の原因になります。

③ **高所作業のときは，下に人がいないことをよく確かめてください。**
また，コードを引っかけたりしないでください。
材料や機体などを落としたときなど，事故の原因になります。

各部の名称

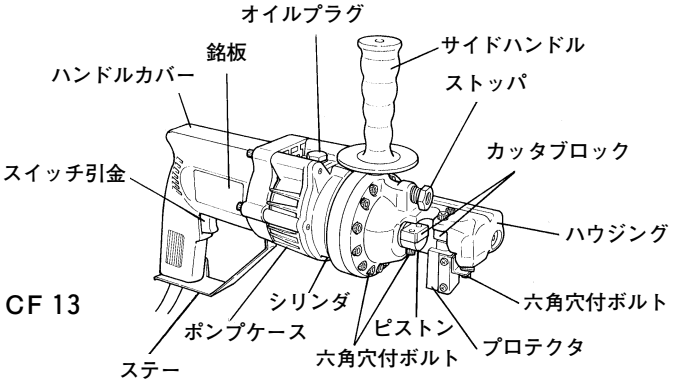
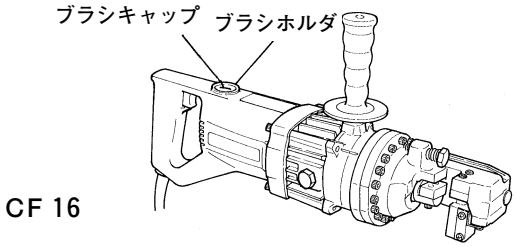


図１－１



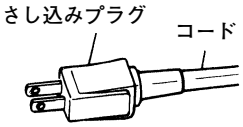


図１－２

仕　　様

	CF 13	CF 16
使用電源	単相交流 50／60 Hz 共用 電圧 100 V	
モーター	単相直巻整流子モーター	
全負荷電流	10.5 A	11 A
消費電力	1010 W	1050 W
切断能力	軟鋼（SS41，SD35 など） 4 ～ 13 ㎜	軟鋼（SS41，SD35 など） 4 ～ 16 ㎜
切断速度	1.5 秒	2.5 秒
寸法 (全長×高さ×幅)	380 × 220 × 105 ㎜	460 × 150 × 115 ㎜
質量	6.2 kg（コードを除く）	8 kg（コードを除く）
コード	2 心キャブタイヤケーブル 2.5 m	

標準付属品

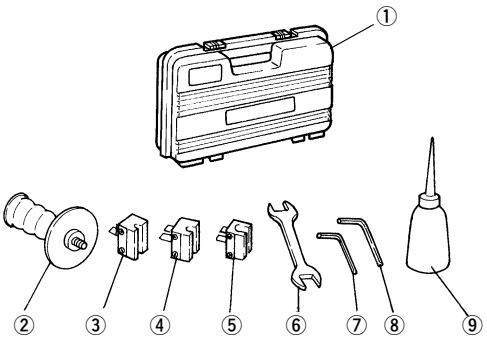


図　2

① ケース ……1個
② サイドハンドル ……1個
③ プロテクタ（10㎜鉄筋用）…1個
④ プロテクタ（13㎜鉄筋用）…1個
⑤ プロテクタ（16㎜鉄筋用）
〔CF16だけに付属〕‥1個
⑥ 両口スパナ ……1個
⑦ 六角棒スパナ（M5用）……1個
⑧ 六角棒スパナ（M6用）……1個
⑨ 油さし（油圧オイル）……1個

別売部品

…… （別売部品は生産を打ち切る場合があります。）

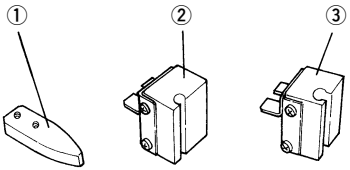


図　3

① フック用カッタブロック（CF13用）
鉄筋に引っ掛けて切断するような場合，大変便利ですのでご利用ください。
② プロテクタ（6㎜鉄筋用）
③ プロテクタ（8㎜鉄筋用）

用　途

○ コンクリート補強用に使用する鉄筋の切断作業

作業前の準備

作業前に次の準備をすませてください。

1．漏電しゃ断器の確認……

この製品は二重絶縁構造ですので，法律により漏電しゃ断器の設置は免除されていますが，万一の感電防止のため，漏電しゃ断器が設置されている電源に接続することをおすすめします。

2．継ぎ（延長）コード……

⚠ 警　告
• 継ぎ（延長）コードは，損傷のないものを使用してください。

電源の位置がはなれていて継ぎコードが必要なときは，製品を最高の能率で故障なくご使用いただくため，電流を流すのに十分な太さのものをできるだけ短くしてご使用ください。

導体公称断面積	最大長さ
1.25 ㎟	15 m
2　㎟	25 m
3.5　㎟	45 m

左の表は，使用できるコードの太さ（導体公称断面積）とその最大長さを示します。

3．作業環境の整備・確認……

作業する場所が注意事項にかかげられているような適切な状態になっているかどうか確認してください。

○騒音防止規制について

騒音に関しては，法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。
ご近所に迷惑をかけないよう，規制値以下でご使用になることが必要です。
状況に応じ，しゃ音壁を設けて作業してください。

ご使用前に

⚠ 警　告

- **ご使用前に次のことを確認してください。1～6項については，さし込みプラグを電源にさし込む前に確認してください。**

1．使用電源を確かめる……

必ず銘板に表示してある電源でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転数が異常に高速になり，機体が破壊する恐れがあります。また，直流電源で使用しないでください。製品の損傷を生じるだけでなく，事故の原因になります。

2．スイッチが切れていることを確かめる……

スイッチが入っているのを知らずにさし込みプラグを電源にさし込むと不意に起動し思わぬ事故のもとになります。スイッチはスイッチ引金（図1－1参照）を引くと入り，離すと切れます。

スイッチの引金を引き，離したとき，引金が戻ることを必ず確認してください。

3．カッタブロックの取付けボルトを確かめる……

カッタブロックを取付けている六角穴付ボルト（図1－1参照）がしっかりと締付けられていることを念のため，付属の六角棒スパナで確かめてください。

ゆるんだ状態でご使用になりますと本体やカッタブロックの破損をまねくことがあります。

4．カッタブロックの確認……

摩耗や変形，欠けの生じたカッタブロックを使い続けていますと，鉄筋は最後まで切断されず，カッタブロックにはさまれた状態となり，ピストンが元に戻らなくなることがあります。さらに本体やカッタブロックの破損をまねくことがあります。カッタブロックの確認を必ず行なってください。

5．プロテクタの確認……

プロテクタは鉄筋の切断片飛散防止のためのものです。切断する鉄筋径に合ったプロテクタを必ず取付けてください。

6．油圧オイル量の確認……

⚠ 警　告
• 油圧オイルの補給は，本体がよく冷えている状態で行なってください。 • タバコ，その他の火気を近づけないでください。 • 油圧オイルの補給は，周囲に可燃物のない場所を選び，こぼさないよう注意してください。こぼれたときは良く拭きとってください。

本機は油圧で作動します。油圧オイルの量が不足しますと十分な能力が発揮されません。オイルプラグ（図１－１参照）をはずして，油圧オイル量の確認を必ず行なってください。

油圧オイル量が不足しているときは，15ページの「油圧オイルの補給方法」をご覧になり，付属の油圧オイルを補給してください。付属の油圧オイルがなくなりましたら，市販のモービル石油ヘビーメデアムまたはモービルハイドロオイル（VG68）をご使用ください。

7．電源コンセントの点検……

さし込みプラグをさし込んだとき，ガタガタだったり，すぐ抜けるようでしたら修理が必要です。お近くの電気工事店などにご相談ください。

そのままお使いになりますと，過熱して事故の原因になります。

8．ストッパの調整……

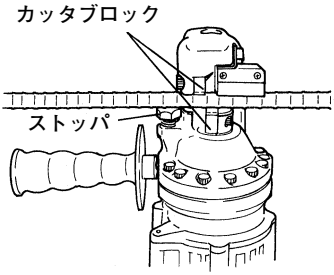


図　4

鉄筋がカッタブロックに対して直角になるように切断する鉄筋径に合わせてストッパを調整してください。（図４）

切断方法

⚠ 警　告

- スイッチ操作時は，絶対にカッタブロックに指を近づけないでください。
- 最大能力を超えた作業はしないでください。またPC鋼など硬い材料は切断しないでください。
- 鉄筋はカッタブロックの間に深くはさんでください。浅い位置で切断するとカッタブロックを損傷したり，切断片が飛ぶこともあり，事故の原因になります。

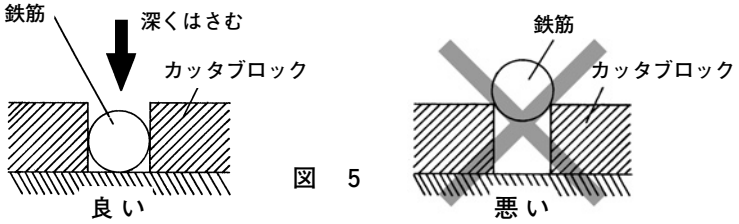


図　5

- 鉄筋はプロテクタの溝に合わせて切断してください。（図6）
  溝に合わせないで切断すると，切断片が飛ぶことがあり，事故の原因になります。
- 作業中，機械の調子が悪かったり，異常に気づいた場合には，直ちに作業を止め，点検・修理に出してください。
- 作業中断時や作業後は，必ずスイッチを切り，さし込みプラグを電源から抜いておいてください。

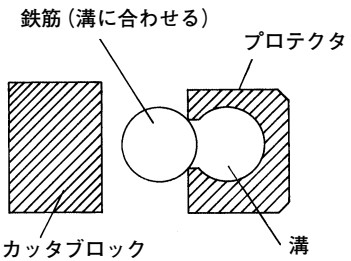


図　6

1．通常の切断方法……

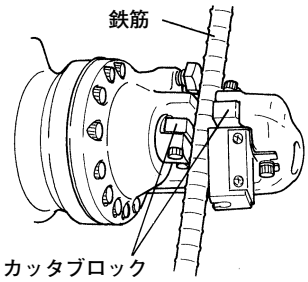


図　7

(1) 鉄筋をカッタブロックの間に深くはさみます。（図7）

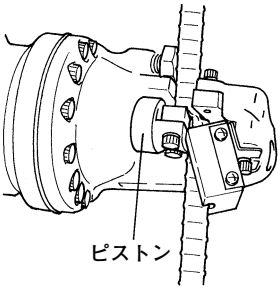


図　8

(2) スイッチを入れますと，カッタブロックのついたピストンが前進し，鉄筋が切断されます。このとき，ピストンが先端へいくまでスイッチは入れておいてください。（図8）

(3) ピストンが先端まで届いた後，スイッチを切るとピストンが戻ります。

ピストンが完全に戻り終わるまでスイッチを入れてもピストンは前進しません。

これは，機体内部の油圧バルブが開いたままで次の油圧がかからないからです。

注
- **切断後，プロテクタの溝の中に残った切断片は取り除いてください。切断片が残っていると，ピストンが食い込む場合があります。**
- **本体の表面温度が 70℃以上になると油圧オイルの粘度が低下し，打抜力が落ちます。一度休んで本体を冷やした後，また使用してください。夏はとくにポンプケースが高温になるので注意してください。**
- **冬期は油圧オイルの粘度が高くなるため，動きにくいことがあります。切断前に 30 秒～ 60 秒ぐらい，暖気運転をしてください。**

2．フック用カッタブロック（別売部品）を取付けての切断……（CF 13 のみ）

スラブ，または柱・梁のフープ，スタラップ，および壁筋，差筋，パイル筋の切断などで鉄筋に引っ掛けて切断するような場合に使用すると便利です。（図9，図10）

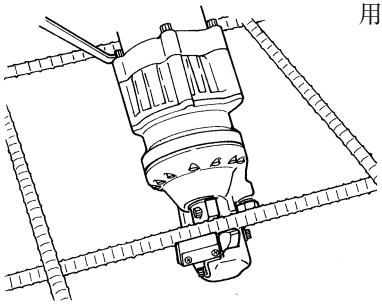


図　9

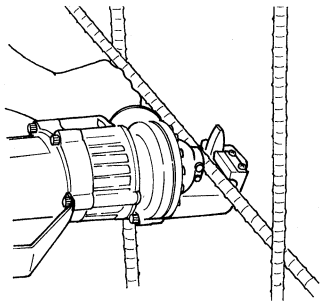


図　10

カッタブロックの寿命および交換方法

1．カッタブロックの寿命……

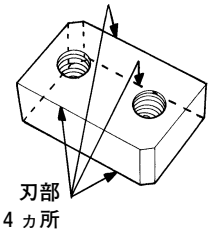


図　11

カッタブロックは鉄筋切断の繰り返しにより刃部が摩耗したり，変形・欠けなどが生じてきます。このまま，使い続けますと機体に損傷を与えるだけでなく，さらにカッタブロックの破片が飛散するなどの恐れがあります。

カッタブロックには図11に示すように刃部が4ヵ所あります。カッタブロックの取付け向きを替えることにより，4回使用できます。

鉄筋を約2000本ぐらい切断しましたら摩耗・変形・欠けのない刃部を使用するようにカッタブロックの取付け向きを替えるか，または新しいカッタブロックと交換してください。

2．カッタブロックの交換方法……

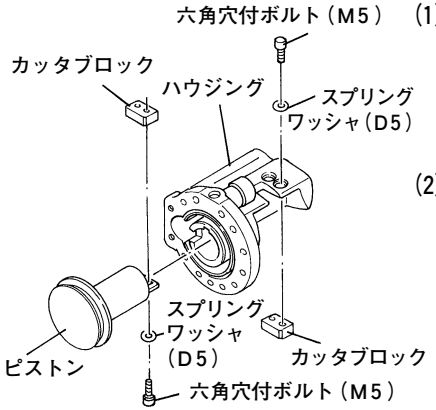


図　12

(1)　取りはずし

付属の六角棒スパナ（M5用）でハウジングとスピンドルの六角穴付ボルト（M5）をゆるめてはずし，カッタブロックを取りはずします。

(2)　取付け

①ハウジングとスピンドルに付着しているゴミや汚れを布などで拭き取ります。

②ハウジングとスピンドルの取付け穴に，カッタブロックのネジ穴を合わせ，六角穴付ボルト（M5）で固定します。

③六角穴付ボルト（M5）を六角棒スパナ（M5用）で十分締付けます。

プロテクタの交換方法

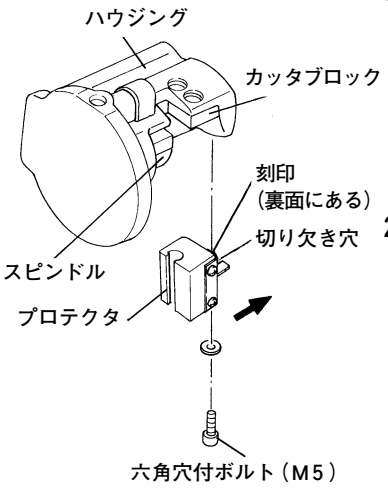


図　13

1．取りはずし……

(1) 付属の六角棒スパナ(M５用)でハウジング先端部の六角穴付ボルト(M5)をゆるめます。

(2) プロテクタをスピンドル側に引いてハウジングから取りはずします。

2．取付け……

(1) ハウジングに付着しているゴミや汚れを布などで拭き取ります。

(2) プロテクタは刻印側を上(ハウジングのカッタブロック側)にして切欠き穴とハウジングの六角穴付ボルト(M5)を合わせ，図13の矢印方向に押し込みながら六角穴付ボルト(M5)で固定します。(図13)

(3) 六角穴付ボルト(M５)を六角棒スパナ(M5用)で十分締付けます。

油圧オイルの補給方法

⚠ 警　告

- **本体が暖まっているときにオイルプラグをはずすと，中のオイルが吹き出すことがあり，事故の原因になります。必ず本体が冷えた状態でオイルプラグをはずしてください。**

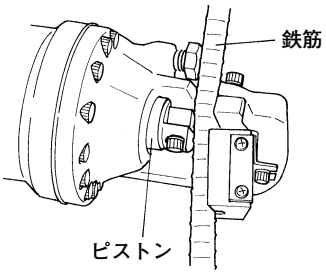


図　14

(1) 最大能力の鉄筋(CF 13 は 13 ㎜，CF 16 は 16 ㎜)を深くはさみ，スイッチを入れ，ピストンを５㎜程度前進させます。(図14)

(2) スイッチを切り，ピストンを止めます。

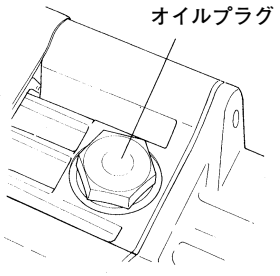


図　15

(3) そのままの状態で，オイル注入口を上にしてオイルプラグをはずし，注入口いっぱいまで付属の油圧オイルを補給します。
(4) オイルプラグをいったん締め付けて，スイッチを入れ，上記の (1) ではさんだ鉄筋を切断します。
(5) (1) ～ (4) までの操作を 2 ～ 3 回くり返し行ない，油圧オイルを満たんにします。
(6) 油圧オイルの補給後はオイルプラグを十分締付けてください。

保守・点検

⚠ 警　告

• 点検・手入れの際は，必ずスイッチを切り，さし込みプラグを電源から抜いておいてください。

1．使用後の手入れ……

使用後は，ピストンまわりの抜きカス・ゴミなどを定期的に掃除してください。

2．各部取付けネジの点検……

各部取付けネジでゆるんでいるところがないかどうか定期的に点検してください。もしゆるんでいるところがありましたら締めなおしてください。
ゆるんだままお使いになりますと，けがなど事故の原因になります。

3．油圧オイル量の点検……

切断力不足の原因の 70 %以上が油圧オイル量の不足によるものです。
油圧オイル量の点検は，使用前に必ず行なってください。

4．モーター部の取扱いについて……

モーター部の巻線部分は本機の心臓部ともいえます。巻線部分にキズをつけたり洗油や水をつけたりしないよう十分注意してください。

注 **• モーター内部にゴミやほこりがたまると，故障の原因になります。50 時間ぐらい使用しましたら，モーターを無負荷運転させて，湿気のない空気をハウジングのスイッチ側風穴から吹き込んでください。ゴミやほこりの排出に効果があります。**

5．表面のよごれの清掃……

本機の外枠は強じんな合成樹脂製ですが，ガソリン，シンナー，石油，灯油類を付着させると表面をいためます。

清掃の場合は，乾いた布か石けん水をつけた布などでふいてください。

水がモーター部に入るとモーターの絶縁を弱めますので，水あらいなどは絶対にしないでください。

6．カーボンブラシの点検……

CF 13

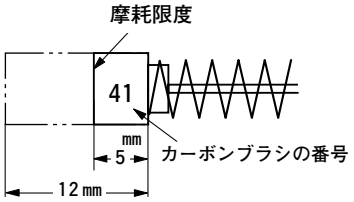


図 16 － 1

CF 16

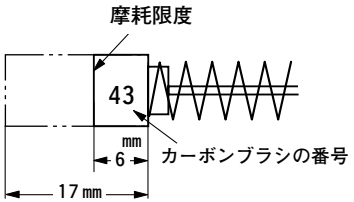


図 16 － 2

モーター部には，消耗品であるカーボンブラシを使用しております。カーボンブラシの摩耗が大きくなりますと，モーターの故障の原因となりますので，長さが摩耗限度ぐらいになりましたら新品と交換してください。

また，カーボンブラシはゴミなどを取り除いてきれいにし，ブラシホルダ内で自由にすべるようにしておいてください。

交換方法は次ページの「カーボンブラシの交換方法」の項をご参照ください。

注 **• 新品と交換の際は，必ず図示の番号の日立カーボンブラシを使用してください。**

カーボンブラシの番号
CF 13 の場合は（41）
CF 16 の場合は（43）
（番号 41 および 43 はコードNαの下 2 桁を示しております。）

7．製品や付属品の保管……

使用しない製品や付属品の保管場所として，下記のような場所は避け，安全で乾燥した場所に保管してください。

○ お子様の手が届いたり，簡単に持ち出せる場所
○ 軒先など雨がかかったり，湿気のある場所
○ 温度が急変する場所
○ 直射日光の当たる場所
○ 引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所

} このような場所には保管しない。

カーボンブラシの交換方法

⚠ 警　告

- **カーボンブラシを交換して組立てる場合は，下記の組立方法に必ず従ってください。万一，内部配線類が回転子（アマチュア）に接触していたり，ハンドルカバーでかみ込んでいるような場合は，感電の恐れがあるので，十分注意してください。**

⚠ 注　意

- **カーボンブラシを交換する際は，交換に必要な部品以外には触れないでください。**

交換方法：CF 13

〈分　解〉

⑴ 小ネジ（３本）と六角穴付ボルト（ステー取付用１本）をゆるめ，ステーとハンドルカバー（図１－１参照）をはずします。

⑵ ブラシホルダを固定している小ネジ（２本）をゆるめ，ホルダピースをはずします。

⑶ カーボンブラシを押さえながらブラシホルダをハウジングから抜き出します。

　このとき小さい㊀ドライバなどでブラシホルダを持ち上げると抜き出しやすくなります。また，リード線を無理に引っ張ったり，傷をつけたりしないよう十分注意してください。

⑷ カーボンブラシをブラシホルダ内に最大限押し込んだ状態で，ブラシターミナルをカーボンブラシから抜きます。（図17）

⑸ カーボンブラシをブラシホルダから取り出します。

〈組　立〉

(1) カーボンブラシをブラシホルダの中に入れ，最大限に押し込んだ状態で図17のようにブラシターミナルを挿入します。

(2) カーボンブラシを押さえながらブラシホルダをハウジングに挿入します。

(3) ホルダピースでブラシホルダを固定します。

(4) 内部配線類が図18のように正規の位置にあること，また内部配線類が回転子（アマチュア）に接触する危険がないことを十分確認してください。

(5) 内部配線類がハウジングとの間にかみ込まれないよう十分注意してハンドルカバーをかぶせ，ステーを取付けて小ネジ（3本）を締付けてください。

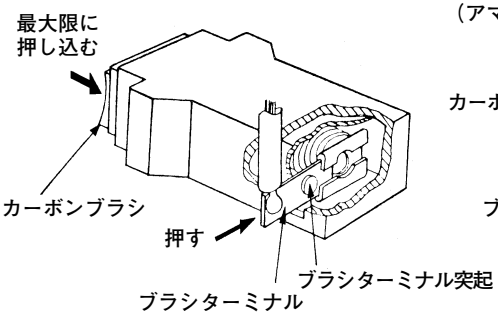


図　17

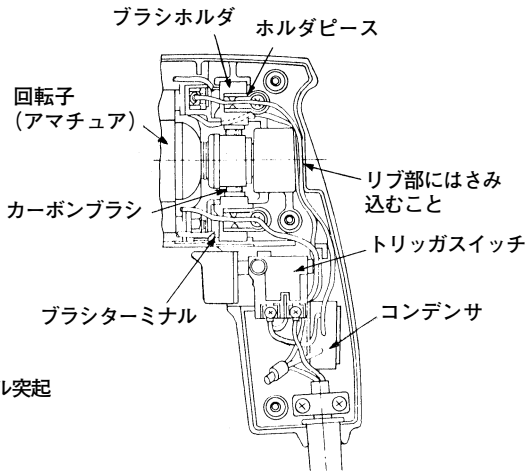


図　18

交換方法：CF 16

マイナスドライバなどでブラシキャップ（図1－2参照）をはずしますと，カーボンブラシが取り出せます。取付けは取りはずしと逆に行ないます。

ご修理のときは

この機体は，厳密な精度で製造されています。もし正常に作動しなくなった場合は，決してご自分で修理をなさらないでお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにご依頼ください。

ご不明のときは，裏表紙の営業拠点にご相談ください。

その他，部品ご入用の場合や取扱い上でお困りの点がありましたら，ご遠慮なくお問い合わせください。

※（外観などの一部を変更している場合があります。）

メ　　モ

メ　　モ

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(No.)などを下欄にメモしておかれますと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日　　年　　月　　日	販売店
製造番号(No.)	電話番号

■ 日立工機電動工具センターにご用命のときは、下記の営業拠点にお問い合わせください。

● 全 国 営 業 拠 点

営業本部	〒108-6020	東京都港区港南二丁目15番1号（品川インターシティA棟） ☎(03) 5783-0626(代)
北海道支店	〒060-0003	札幌市中央区北三条西四丁目（日生ビル） ☎(011) 271-4751(代)
東北支店	〒984-0002	仙台市若林区卸町東三丁目3番36号 ☎(022) 288-8676(代)
東京支店	〒108-6020	東京都港区港南二丁目15番1号（品川インターシティA棟） ☎(03) 5783-0629(代)
中部支店	〒460-0008	名古屋市中区栄三丁目7番13号（コスモ栄ビル） ☎(052) 262-3811(代)
北陸支店	〒920-0058	金沢市示野中町一丁目163番 ☎(076) 263-4311(代)
関西支店	〒530-0001	大阪市北区梅田二丁目6番20号（スノークリスタル） ☎(06) 4796-8451(代)
中国支店	〒730-0011	広島市中区基町11番13号（第一生命ビル） ☎(082) 228-0537(代)
四国支店	〒761-0113	高松市屋島西町字百石1981 ☎(087) 841-6191(代)
九州支店	〒813-0062	福岡市東区松島四丁目8番5号 ☎(092) 621-5772(代)

● **電動工具ご相談窓口** ── お買物相談などお気軽にお電話ください。

お客様相談センター　フリーダイヤル 0120-20 8822（無料）

※携帯電話からはご利用になれません。（土・日・祝日を除く　午前9：00 ～ 午後5：00）

電動工具ホームページ ── http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/

日立工機株式会社

512
部品コード　C99051505　N